

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

2月号

(第173号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

浄土の教えに帰依された



正信念仏偈に学ぶ
三蔵流支授浄教
焚焼仙経帰楽邦
三蔵流支、浄教を授けし
かば、仙経を焚焼して楽
邦に帰したまひき。

「現代語訳」
菩提流支三蔵から浄土の
経典を授けられたので、
仙経を焼き捨てて浄土の
教えに帰依された。

本師曇鸞和尚は
菩提流支のをしへにて

仙経ながくやきすてて

浄土にふかく帰せしめき

(曇鸞大師は、菩提流支に教
え導かれ、仙経をすべて焼
き捨てて、浄土の教えに深く
帰依された。)

と親鸞さまは『高僧和讃』に詠
まれています。

曇鸞大師は、“仙経”と
いわれる不老長寿(長生き)
の法を学ばれていました。そ
の中で、菩提流支というイン
ドのお経を中国語に訳されて

いた僧に出遇われました。そ
して、浄土三部経の中の
『観無量寿経』を与えられ、
不老長寿の教えより優れた
浄土の教えにめぐめ帰依され
ました。

「年をとりたくない」「い
つまでも長生きしたい」とい
った願いは誰にでもあること
です。しかし、年をとらない
ということはず不可能です
し、長生きすることが必ずし
も幸せであるとは言えないで
しょう。それを自覚してみ
ると、このいのち尽きるまで人
生を生きぬかなくてはという
見方ができるでしょう。この
世でもあの世でも救われると
いわれる仏さまの教えは、
生死の問題を超えていたと
いうことです。

曇鸞大師も、その教えにめ
ぐめ、不老長寿を願う生き
方は間違いであったと仙経
を焼き捨てられたのでしょ
う。これまで大切にしてきた
ものを、“焼き捨てる”とい
う表現は、それほど特別な決
意であったことがうかがえま
す。

曇鸞大師は、天親菩薩の
『浄土論』を学ばれて、『往
生論註』を著されました。
天親菩薩のみことをも
鸞師ときのべたまはずは
他力広大威徳の

心行いかでかさどらまし
(天親菩薩の『浄土論』の
教えを、曇鸞大師が『往生
論註』に詳しく示してくだ
さらなかつたなら、広大です
ぐれた功徳をそなえた他力の
信心と念仏を、どうして知る
ことができたであろう。)
と親鸞さまは同じく『高僧和
讃』に詠まれています。
他力、往相、還相といった
親鸞さまの教えの大切な柱と
もなる教えが確立されたの
が、曇鸞大師の『往生論註』
であったということです。そ
の内容が次の句に出てきま
す。



仏教語豆事典

阿鼻叫喚

二つの地獄で泣き叫ぶ

「幾十方にも及ぶ広島在住の無辜の民を、一瞬にして阿鼻叫喚の地獄に晒したということでもあります」。井伏鱒二の『黒い雨』には原爆が投下された情景を、このように描いています。

「阿鼻叫喚の巷と化す」と表現されるように、阿鼻叫喚は、戦場や大災害の惨状を形容する語句で、地獄絵そのままに、人びとが泣き叫び、逃げまどう悲惨な状況を表しています。

この「阿鼻」も「叫喚」も地獄の名前で、八大地獄の中に入っているものです。

阿鼻叫喚は無間地獄と訳されるように、間断なく苦しみを受ける地獄の中で最も苦しい場所です。

叫喚地獄では、熱湯たぎる大釜の中に投げ込まれたり、猛火の鉄室に入れられたり、苦しみを受けます。

この両地獄ともあまりの苦しみに耐えられず、泣き叫ぶというところから、惨状を形容する言葉となりました。

あれから六十年経ちました。

このような阿鼻叫喚の情景が、世界中から無くなるように、念願したいものですね。



あばた

極寒地獄でできる腫れ物？

「あばたもえくぼ」という諺をご存知ですか。

愛する者には、あばたさえもえくぼに見えるという、ほほえましいたとえです。

こわいと恐れている人の目には、枯れ尾花もゆうれいに見えるという、「ゆうれいの正体見たり枯れ尾花」の類です。

この「あばた」とは、サンスクリット語「アルブダ」の音写で、腫れ物とか水疱という意味で、仏典にも出てくる言葉です。

仏教で説かれる八寒地獄の一つに、阿浮陀地獄があります。嘘をついたり、悪口を言ったり、聖者を軽蔑する言葉を吐いた者が落ちる地獄です。

この地獄に落ちると、極寒にさらされるため、身体中に腫れ物ができ、そのために、たいへん苦しむといわれています。

このアルブダ・阿浮陀があばたとなり、天然痘のあとに残る痕跡の意味となりました。

現代では、幸いなことに、天然痘は種痘のおかげで無くなってしまいましたが、「あばたもえくぼ」に見える心は、ますます盛んなようですよ。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社刊より

編集後記

世界情勢も含め不穏なニュースが多いなかで、今月末、アメリカがイランに空爆を始め、たというニュースが飛び込んできました。「またか！」と怒りに満ちた声をあげたくありません。戦争する国と向き合っていく大勝した高市政権はこれからどうしていくのでしょうか。



年忌法要表

1 周忌	2025 (令和 7) 年	23 回忌	2004 (平成16) 年
3 回忌	2024 (令和 6) 年	25 回忌	2002 (平成14) 年
7 回忌	2020 (令和 2) 年	27 回忌	2000 (平成12) 年
13 回忌	2014 (平成26) 年	33 回忌	1994 (平成 6) 年
17 回忌	2010 (平成22) 年	50 回忌	1977 (昭和52) 年